

チョウの種の同定は、慣れていない者にとっては非常に困難です。翅も「前翅」「後翅」があり、それぞれ「表」（背中側から見た面）と「裏」（翅をたたんだ時に見える面）があります。種類によっては、オスとメスで模様が大きく異なります。更に「春型」と「秋型」で模様や色が異なる種もあります。素人にはお手上げなのです。

8月上旬に、長野県の八島湿原（やしましつげん）で撮影したチョウの中にも、非常に紛らわしいものがありました。アザミの吸蜜中の、翅の裏側を見せているチョウです。「ヒョウモンチョウ（豹紋蝶）の仲間」ということまでは私でもわかりました。翅の裏側に「銀色の紋」があるので、「ウラギンヒョウモン（裏銀豹紋）」か「ギンボシヒョウモン（銀星豹紋）」のどちらかだろう、というあたりまではたどりつけました。しかし私の眼力ではここまでで、どっちか決定には至りませんでした。

そこでまた「チョウの生き字引」露木和男先生に同定を依頼しました。すぐにお返事があって、「ウラギンヒョウモンだと思います。こうしの縁の銀の斑紋が三角のように見えます。ギンボシとの区別は難しいですね。ギンボシの方がレアです。」という同定でした。さすがです！というわけで、安心して「日々の理科」に掲載できました。

(2024年8月上旬／長野県霧ヶ峰八島湿原)

